

# タイ地質調査所

1960年10月26日14時38分 ビルマ地質調査所のチェン技師に見送られて ラングーン飛行場をたつ。ビルマ航空のバイカウント機の旅は快適で ほとんど微動だにしない。ロンギーの stewardess はすでに東洋風のとやかさを示し かん入りタバコをすすめては火をつけてくれる。眼下は金色に光る泥の河と緑の田 一度海に出て また陸に入る。15時15分 お茶・サンドイッチとカステラに青いバナナが2本。15時32分 タイ・ビルマ国境を通過する。窓外の気温は-3°C バンコックは30°C くらいになろうという。眼下はびっしり緑のジャングル。16時12分 バンコックドムア空港着。ここで30分時計を進める。

翌27日午前中はエカフェ事務局を訪れ 午後時間が少しあるので タイ地質調査所にサンプラバース所長をたずねる。氏は多忙のところをとくに時間をさいて

## タイ地質調査所(工業省鉱山局)

### 組織表(計画中)

次 長

本 局										地 方 局										
秘書室	鉱区部	鉱山調査部	地質調査部	鉱山技術部	冶金部	監	ブケット	鉱山部												
通信課	審査課	調査課	航空調査課	鉱山監督課	冶金研究課	督	ファンガ	鉱山部												
統計記録課	鉱区管理課	計算課	鉱床課	機械監督課	冶金統制振興課	官	タクア	鉱山部												
会計課	生産販売管理課	複製課	物理学課	研究鉱物活用課	抽出冶金課		パノン	鉱山部												
用度課	中央鉱山部		化学課	鉱物開発課			ソククラ	鉱山部												
			試験課	訓練課			スラタ	鉱山部												
			地下水課				ナコンスリタマ	鉱山部												
			標本図書課				ラート	鉱山部												
			鉱物科				ヤラ	鉱山部												
							トラン	鉱山部												
							チャンボン	鉱山部												

自ら説明案内の労をとられた。

説明しながら 現在給料引き上げのため紙上計画をたてていて これが現実とまざりあってしまうと苦笑。大戦中の 予算は年間 865,000 円くらいであったが 1960 年度は約 3,460,000 円となり '61年にはさらに増加の見込みという。しかし調査面では たとえば地形図は 20万分の 1 程度のもを使い 大学の学生で地質を志すものはなく やむを得ず他の学科を出たものを再教育して地質家とする状態の由で こういった点は わたしのバンコック在任中の 5 年前と たいして変っていないようであり 所長の最も苦勞しておられることの 1 つと察せられた。建物の内外は実にきれいに整とんされ また展示のしかたなど 非常にすぐれていることをいうと今の次官は海軍の将官で ひょっこりきては視察するので 建物はきれいだと言われたが これはむしろ タイ人のきれいずきにもとづくものであろう。

建物はすべてタイ政府の建てたものであるが 機械類の 80% は米国の USOM によって供給されたものだという。現在所員は全部で 62 名 アメリカ人の地質技師 3 名 地下水技師 1 名がおり USOM は地下水 及び地質調査所鉱山技術部の鉱業開発計画の仕事をしている。そのほかにフランス人の地質技師が銅の調査にきており この場合給料はフランス政府からでる。諸設備 機械はタイ政府がもつ。また IAEA の技術者としてスウェーデンの地質技師 1 名と英国の化学技師がいて 車と仕事場とをタイ政府が与えているという。ただしこれらの外国人技術者は いずれも図幅調査には従事できないとのことであった。



タイ地質調査所 ホールの壁画



サンプラバース所長(肩章と略綬をつけた制服を着ている)と地質調査所の陳列室



バンコック市内のお寺



タイ最南の空港ソングクラ

昨年4月のエカフェ会議に提案された国際地質調査所のことについては タイ政府は この案に大いに賛成でバンコックにこれを置くとすれば 調査所の隣の土地をすぐにでも提供することになっていると 窓外の空を指し示し しかし場所はマラヤでも その他のところでも結構であると付け加えられた。

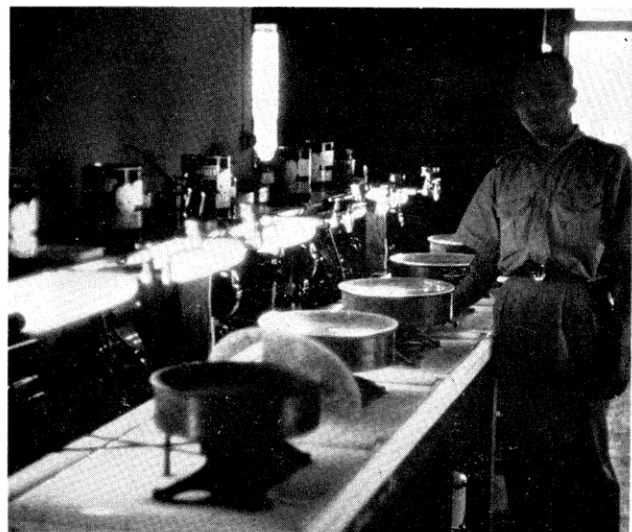
所内を見学し 所長のお話を伺った印象からすると タイの調査所は日本の技術援助を この国際地質調査所のような機関を通じて受け入れたい意向らしく 監督官庁の十分の理解の得られない悩みを持つところなど ビルマの場合と同様だった。

また見学中目についたことは 所員が監督者がいないのに黙々と自分で仕事をしていること 生物学を専攻した女子所員が 採鉱技師として働いている微生物学者(英国の 修士)によって 古生物研究の訓練を受けていること 地下水の分析や一般の化学分析を 女子所員が担当していること 前に述べたように所内がよく整頓されきれいであること 米国の援助が予想以上に大きいことなどである。

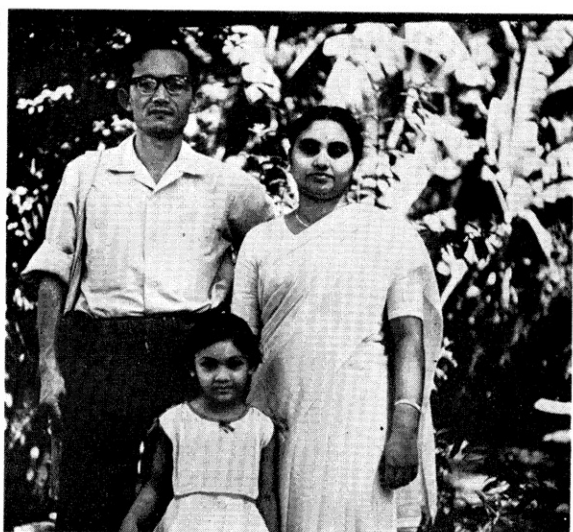
写真室などはその担当者が自ら設計したとか あまり大きくはないが機能的にできていてきわめて清潔であった また所員は物静かで礼儀正しい。

航空調査課 図幅調査を担当。図は20万分の1で用意し 25万分の1の図に日本で印刷 全国約75図幅。現在地質技師は6名。大学生で地質学科を希望するものがないため 他学科の卒業生を再教育してい

るありさまであることは 前に述べたとおりである。紙上計画では 地質技師 採鉱技師を合せて19名  
 鉱床課 物理探査を実施しており 3人の地質技師がいるが さらに2名を要求中  
 物理学課 すずで学位をとった地質技師1名を入れて3名の人員。岩石鉱物学的研究を行なうものようである。薄片作成は米国から供与された機械を使用している。各台に蛍光灯がつけられ 回転盤にはカバーがしてあり 清潔に保たれている。  
 化学課 化学技術者8名。2階で一般分析 1階で地下水分析をどちらも女子所員が行なっている 部屋は明るく 整頓が行き届いていて清潔である。  
 試錐課 試錐技術者は3名  
 地下水課 現在コラート高原で調査中。請負業者を入れると230名のメンバーに上る。政府職員は9名で 4名が地質技師(学士)2名が測量技術者 2名が化学技師(学士)1名が試錐技術者となっている。  
 標本図書課 課長は地質技師。女子生物学者が古生物の訓練をうけていることは前に述べたとおりである 標本は1階の倉庫に入れ 分類整理している。陳列室は本部玄関に接して設けられ あまり大きくはないが 清潔で気のきいた陳列である。そのとなりが図書室で一般に公開されているとのことであった。  
 鉱物課 物理探査(重力・磁気・地震)鉱物の物理学的研究を担当している (地質部 沢田秀穂技官)



アメリカから供与された薄片作成装置と地質技師



バンコックエカフェ事務局のタイピングプール主任の家族と沢田技官